

# 正直家新聞

平成二十九年十一月号



こんにちは。正直家新聞です。

つい先日までは、どこを見渡しても、ハロウィンの飾りで賑わっていましたが、もうすっかりXmasモードに変わっていますね。この時期になると、小さいお子さんを連れてくるパパ・ママ達から、「サンタさんが来てくれなくなっちゃうよ!」の、魔法の言葉が、あちらこちらから聞こえてきますね☆私もまた然り…十一月〜十二月二十四日限定の、この魔法の言葉に助けられています(笑)

子供たちは、慌ててお利口さんになり、プレゼントは何にしようかとまた悩みだします。可愛いですよね。いつまでサンタさんを信じてくれるのかな〜と思いつつながら、自分をサンタにさせてくれた我が子に毎年、感謝をしています☆



今年も残す所あと一ヶ月。良い年越しを迎えられますよう、皆さん体調管理には十分に気をつけられて下さいね!



先日、講師の方をお招きして講習会を開催し、スタッフ全員で参加させて頂きました。みつぐまち診療所の津野田先生を講師としてお迎えし、「認知症とどう向き合うか」という事をテーマに色々なお話を聞かせて頂きました。



医療関係・介護関係…  
様々な職種の方がお集まりくださいました。

谷崎院長  
より一言



みつぐまち診療所の  
先生を講師に  
お招き

様々な目線から介護というものを学び、中でも私が印象に残った先生の言葉は、「ご家族からの話は情報の宝庫だ」というお言葉です。実際、「家族の中には、『うまくまとまらない』『何と伝えたら良いか分からない』と話される方は多くいらっしゃると思います。しかし、「家族しか知らないご利用者の一面や、情報というものは、日頃、御利用者と関わらせて頂く私達介護者にとって、多くのヒントが隠されていると思います。そういった事を改めて感じ、考えさせていただく講習会でした。これからも、スタッフ一同、「利用者は勿論の事、ご家族にも寄り添って行ける介護を目指します!」また、この新聞を「ご覧になっておられる方の中にも、家族介護で悩んでいる方や、今後、家族の中に介護が必要になってくるであろう状況で悩まれておられる方もいらっしゃるかと思えます。そんな時はどうぞ、正直家に「相談にいらしてください。いつでもお待ちしております!」